



県内総生産10兆円達成!

「県内総生産」とは一年間に県内で生み出した付加価値の総計で、どれくらい経済成長しているかを推し量る唯一の統計データです。私は知事に就任して最初に策定する総合計画(みやぎの将来ビジョン)に、この県内総生産を「8兆円台から10兆円以上にする」と書き込みたいと考えました。そこで、当時の県幹部にその旨を話したところ、経済担当の部長が慌てて知事室に飛び込んできて「10兆円なんて絶対に無理です!関東自動車工業(現トヨタ自動車東日本)の岩手工場を2つ誘致しなければならぬ規模ですよ。あまりにも無謀すぎます!」といさめられました。当時、県庁内には大きな企業の誘致は無理だという雰囲気が充満していたのです。そこで、私は庁内の士気を上げるためにも、あえて高い目標を定め、県庁一丸となって頑張ることにしました。岩手・宮城内陸地震や東日本大震災といった大災害、リーマンショックなど数えきれないほどの苦難がありましたが、復興のハード事業の完成がほぼ見え始めた平成30年度には、10兆円を達成していたことがこの度公表されました。今まで苦しかった分、県民の皆様とのお約束を達成できたことに心の底から安堵しております。令和元年度以降は東日本台風やコロナ禍があり、また消費に影響のある「人口」が、今後急激に減少することを考慮し、昨年度からスタートした新・宮城の将来ビジョンには「10兆円」という目標は書き込みませんでした。これからは10兆円まで伸ばした経済規模を極力小さくしないよう、民間の活力を最大限発揮できる施策に取り組みながら、福祉・環境・教育といった分野にも果敢に取り組むつもりです。ぜひご期待下さい!

宮城県知事 村井 嘉浩



【写真の説明】1 2 親学びサロンの様子。緑のビブスを着ているのはチームおおさきのメンバー 3 女川町での派遣事業の様子。出産を控えた夫婦が参加し、お父さんグループとお母さんグループに分かれてワークショップを行った 4 東松島市の中学校での派遣事業の様子。妊婦体験や赤ちゃん人形を抱っこする体験を行った

家庭環境を取りまく社会課題が多様化・複雑化している今、「子育て」が「孤育て」にならないよう、まずはこうした取り組みを多くの方に知っていただき、家庭教育支援に関心のある方々が学び合う場をたくさん作っていききたいです。また、子育てを支援してもらった方々が、やがて次の世代の子育てを支援する、そんな「世代を繋げる活動」になっていけたらいいなと思っています。地域全体で、世代を超えて、一緒に子育てに取り組める、そんな温かい社会にできたらどんなに

— 今後の展望 —

は宮城県版親の学びのプログラム「親のみちしるべ」を活用し、県内各地域での学習機会の提供に取り組んでいます。保護者対象の講座に加え、出産を控えるご夫婦で参加できる講座や、中・高生への出張講座など、内容や対象はさまざまです。将来的には、各地域で活動が広がるよう、各市町村の支援チームと密接に連携し、活動を進めています。【詳しくは下記QR(県ホームページ)をご覧ください】



子育てサポーター養成講座について

「子育て中の親を応援したい!」「家庭教育支援について学びたい!」という方の参加を募集します。

5月～6月にかけて県内5つ(大河原・仙台・北部・東部・気仙沼)の教育事務所で行います。詳しくは、各市町村の生涯学習・社会教育担当課にお問い合わせください。



大崎市家庭教育支援チーム代表
宮城県家庭教育支援チーム協議委員
波多野 ゆかさん

素敵でしょうか。理想を胸に抱きながら、仲間とともに、あちこちぶつかりながら、少しずつ取り組んでいます。



【写真の説明】1 2 親学びサロンの様子。緑のビブスを着ているのはチームおおさきのメンバー 3 女川町での派遣事業の様子。出産を控えた夫婦が参加し、お父さんグループとお母さんグループに分かれてワークショップを行った 4 東松島市の中学校での派遣事業の様子。妊婦体験や赤ちゃん人形を抱っこする体験を行った

— チームおおさきとは? —

平成29年に大崎市家庭教育支援チーム(チームおおさき)が発足しました。それまで鹿島台地域に支援チームがありました。市全域の子育て家庭をサポートしたいという思いで、市の生涯学習課と連携し、活動を進めています。【詳しくは下記QR(県ホームページ)をご覧ください】

— 宮城県家庭教育支援チームについて —

県が設置する家庭教育支援チームでは、協議委員・地域実践リーダー・各市町村から推薦された1～2名がチーム員となり活動を行っています。県では、養成講座などを開催し、県全体の「子育てサポーター」などのスキルアップを図り、支援チーム



第6回

家庭教育支援チームが育む子育ての輪

大崎市家庭教育支援チーム
宮城県家庭教育支援チーム

県政運営の基本的な指針となる「新宮城の将来ビジョン」(以下「新ビジョン」)が2年目を迎えました。本シリーズでは、新ビジョンの理念である「富県躍進」を目指し、政策を推進するための重要な視点である「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」「SDGsの推進」に焦点を当て、県内の企業・団体などを紹介します。

新ビジョンでは、「政策を推進する4本の柱」+「復興の柱」を掲げています。今回は、「子ども・子育て」の柱から、県や大崎市の家庭教育支援チームで活躍する波多野ゆかさんにお話を伺いました。

— 活動のきっかけは? —

20年前、私が大病を患った頃です。幼い子どもたちにどんな親の姿を残せるのか?と考えたときに、地域のボランティアや学校支援に励んでいた母の姿を思い出しました。地域や学校のために何かお役に立てたらと、自分も相手も大事にする関わり方「親業(おやぎょう)」を学び、資格を取得したことで、活動の幅が広がり、さまざまな巡り合わせで現在に至っています。

課と連携し、チームを立ち上げました。チームのメンバーは、子育て経験者をはじめ、子育て中の方、民生委員・児童委員、看護師や教員、保育の仕事をしてきた方など、老若男女さまざまです。

チームおおさきのモットーは適材適所、臨機応変。一人一人の個性を生かした活動を運営のスタンスとしています。「どうしたら参加した皆さんに寄り添えるのか」活動の前に関わり方の心得をチーム全員で確認し、進めています。

子育て中の保護者を対象とした「親学びサロン」や出張講座では、子どもとの関わり方の講話やワークショップ、子育ての悩みの共有など、「コロナ禍でもできる工夫をしながら、学びの場を提供しています。」

新・宮城の将来ビジョンシリーズ
2 PROGRESS ~ともに創ろう、躍進する宮城の未来~
大崎市家庭教育支援チーム
宮城県家庭教育支援チーム

特集1
4 令和4年度当初予算の概要
宮城の未来を育むハートフル予算

特集2
8 みやぎの出会いをサポートします
みやぎ結婚支援センター「みやマリ!」とは?

県政ニュース
10 みやぎ環境税
みやぎの豊かな環境を守り、次の世代へ引き継いでいこう

県政ニュース
12 誰もが住みよい宮城を目指して

県政ニュース
13 民生委員・児童委員になりませんか?

県警からのお知らせ
14 春山での山岳遭難に注意
高齢運転者の運転免許更新制度が大きく変わります

15 おいしいものがたくさん!
まんぷくみやぎ

16 7つの地域から虹メール

18 お出かけガイド

20 みやぎのふるさと通信(石巻市・気仙沼市)

21 県立施設インフォメーション

22 新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ

23 県からのお知らせ

みやぎの人口(令和4年2月末現在)

住民基本台帳人口	2,264,958人	世帯数	1,023,602世帯
男	1,104,460人	※うち、外国人住民基本台帳人口は20,450人です。	
女	1,160,498人		

今号の表紙 木漏れ日の小道を抜けると別世界…?

緑生い茂る森の小道を抜けた先に広がる大湿原はまるで別世界のよう。6月頃にはニッコウキスゲが湿原全体を山吹色に彩ります。



仙台・宮城観光PRキャラクター
むすび丸